



合田外科新聞

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/GODA/index.htm>
ブログ <http://kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp/>

平成23年4月

第56号

合田外科

TEL 0797-71-2132
FAX 0797-74-1430

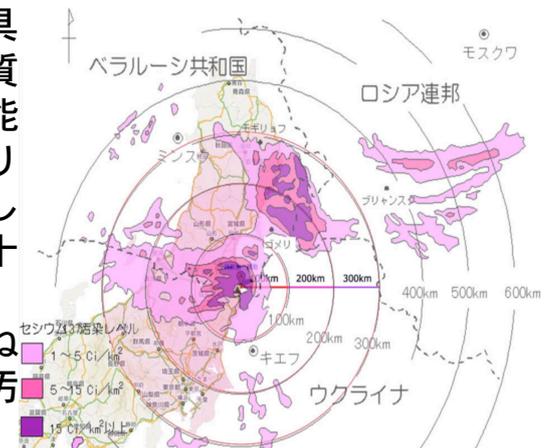
最近の話題：放射線障害

3月11日、東北から関東にかけて東日本大震災が発生しました。マグニチュード9という超巨大地震で、記録に残っている限り日本では最大級の地震です。3月24日現在で死亡者・行方不明者は合わせて25000人を越えており、阪神大震災を優に超える大惨事となりました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りすると共に、震災にあわれた方々にお見舞いを申し上げたいと思います。規模の大きさもさることながら、今回の地震では福島第一原子力発電所が津波によって大きな損傷を受け、放射能漏れという深刻な事態が生じました。関係者が懸命な作業に当たっていますが、2週間を経過した今でも事態安定化の目処はたっておらず、依然危機は進行しています。原子力発電所の事故というと、どうしても1986年に旧ソビエト連邦で起こった**チェルノブイリ原子力発電所事故**を思い出してしまいます。この



事故は原子力開発史上最悪の事故で、休止中の原子炉で行っていた実験が失敗し原子炉が暴走、炉心融解（メルトダウン）から大爆発に至ったもので、何百キロもの範囲にわたって放射能汚染が生じました。発電所の管理員3000人が即死し、以後何十年も汚染地域での発ガン率が上昇したと言われていています（左の写真は「石棺」と

呼ばれるコンクリートの建造物で、放射線物質を封じ込めるため何十万人もの人手をかけて緊急に作ったものです。作業に携わった人の多くが放射線障害で亡くなりました。周辺は現在でも汚染が激しく、立ち入り禁止となっています。さて放射線による障害ですが、**急性障害**と**慢性障害**に分けられます。急性障害は全身に放射線を浴びた人に見られる障害で、通常は原子力発電所の作業員など特殊な環境の方に限られます。骨髄が損傷して貧血や白血球の減少による感染症が生じたり、消化管障害による激しい嘔吐・下痢、また脳血管障害が生じ、数日～数週間で死亡することも稀ではありません。一方、慢性障害は放射能を帯びた液状・粒状の物質に触れることによって生じ、具体的には大気中に漂っている塵状の放射性物質が皮膚に付着し体内に取り込まれたり、放射能で汚染された食物を食べることによって起こります。体内に入った放射性物質は放射線を出し続け長期にわたって影響を及ぼし、数年～数十年後に発ガン率が上昇すると言われていています。右図はチェルノブイリの汚染範囲を今回に重ね合わせた図ですが、600キロでは大阪まで汚染されることになり、他人事ではありません。





最近の話題：生肉（ユッケ）食中毒

4月の中旬以降、富山県・福井県・神奈川県と同じ焼肉チェーン店で食中毒が多発しました。腸管出血性大腸菌O111が付着した生肉（ユッケ）を食べたのが原因のようで、6歳の男児2名の他43歳と70歳の女性が死亡しました。また死亡に至らないまでも大腸菌の毒素による溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症した重症者も



30名を超えており、社会問題となっています。元来、夏場は食中毒菌の活動が活発になる時期であり、菌をつけないためにしっかりと手を洗い、食器などの洗浄・消毒・乾燥に留意し、菌を増やさないために冷蔵庫を活用し、また菌を殺すために食品は中心までしっかりと加熱することが大原則ですが、どうも今まで生肉に関しては特有の問題点があったようです。以前より厚生労働省は「生食用食肉の衛生基準」を策定し、生肉の加工や保存に関して詳細に定めていましたが、少なくとも最近2年間以上はこの基準に適合した生肉は出荷されていないそうです。ある食肉処理施設関係者の話では「後々どんな人間が触るか分からないのでかつに『生食用』として出荷できない。」そうで、加工・卸売業者も「出荷する牛肉は加熱用だけ。」と口を揃えているようです。するとこれだけユッケなどの生肉が出回っているのは小売店が勝手にしていることになり、厚生労働省の衛生基準は無視されている訳です。小売店がしていることとはいえ卸売業者なども全く知らなかったとは考え難く、これは食肉業界全体の問題と言えるでしょう。さて腸管出血性大腸菌について少し説明しますと、この菌はベロ毒素という毒素を産生し、3～5日間の潜伏期の後に激しい腹痛を伴う頻回の水様便からやがて血便を生じます。出血量は次第に増加し、便に血が混じる血便というより血液そのものを排出するようになります。数%が溶血性尿毒症症候群を合併しますが、これは微小な血管の炎症による急性腎不全で、子供や高齢者に多く、死亡率も高い合併症です。O111以外にも有名なO157や最近ドイツで問題となったO104など多くのタイプの菌が存在しています。とにかく菌を寄せつけないことが大切ですので、君子危うきに近付かずで、重々注意して対処して下さい。

病気の知識：胃の病気：③ 慢性胃炎

慢性胃炎はよく聞く病名で、昔から使われてきましたが、実ははっきりとした定義が難しい病気です。胃カメラやバリウム検査で異常がある形態学的胃炎（表層性胃炎・肥厚性胃炎・萎縮性胃炎・糜爛性胃炎）や組織の検査で炎症があり、ピロリ菌が関与していると言われている組織学的胃炎、また検査で異常は認めないものの自覚症状がある機能性胃炎など多くのものが含まれています。何れにしても慢性胃炎として胃酸の分泌を抑える薬剤や胃の粘膜を保護する薬剤、また胃の運動を改善する薬剤などを組み合わせて治療します。



医院よりのお知らせ

①熱中症に気をつけましょう！

今年も暑い季節がやって来ました。この時期に気をつけなければならないのが「**熱中症**」です。去年は記録的な猛暑で、全国的に熱中症で倒れられる方が続出しました。亡くなられた方も多く、熱中症の恐さが知れ渡った年でした。今年は昨年ほどの猛暑ではないようですが、例年並み以上には暑いようで、事実6月の段階で既に全国で数百人の方が熱中症で搬送され、また亡くなられた方もいらっしゃいます。熱中症は気温が高い時や、激しい運動などで体内にたくさんの熱が発生すると起こり易いのですが、時には**屋内でじっとしていても起こることがあります**。症状は軽い場合には手足の筋肉に痛みを伴う痙攣が起こる程度ですが、ひどくなると目眩・頭痛・嘔吐などが起こったり、極端な場合には意識をなくして死亡することもあります。日本では熱中症は7月・8月の午後に多く発生しますので、日射しが強く気温が高い時はできるだけ戸外の活動は控えるようにしましょう。今年**は原発問題のため関西電力から節電要請がありました**が、クーラーを使って適度に屋内を冷却するように心掛けて下さい。またトイレに行く回数が増えるからと水分をあまり摂らない方もいらっしゃいますが、これは本当に危険です。積極的に水分を摂って下さい。



②節電に関して

ご承知のように、今年の夏は全国的に原子力発電所が休止しております。関西電力からも15%の節電要請が来ておりますので、当院も不要不急の電気はできるだけ使用せず節電に努めます。なお**当院の冷房は重油によるボイラー式ですので電気は使用しておりません**。ご安心下さい。



③待合室テレビ入れ替え

今年7月でテレビのアナログ放送は終了ですので、当院待合室のテレビも地デジ対応のために東芝の最新式液晶テレビに入れ替えました。以前の半分白黒のテレビとは見違える程の画質です。なお**チャンネルの変更はリモコンで行いますので受付にお申し出下さい**。

新規処方薬情報：⑦ ラコール

ラコールは手術後などで十分に食事が摂れない場合に用いる**総合栄養剤**です。従来当院では同様の効果のある缶入りの栄養剤「**エンシユアリキッド**」を使用していましたが、今回の震災にて入手困難となり、急遽変更致しました。ラコールは缶に比べて軽量のパック入りの製剤で、**コーヒー・バナナ・コーン味**があります。牛乳・大豆を原料とするタンパク質に脂質・糖質・ビタミン・ミネラルなどをバランスよく配合してあります。基本的にはチューブ通して直接腸内に注入する経腸栄養剤として保険適応となっておりますが、口から摂ることもできます。その場合には1日1回あるいは数回に分けて摂ることになります。栄養剤ですので大きな副作用は通常はありませんが、**牛乳アレルギーの方は注意して下さい**。下痢や吐き気、お腹の張りなどは比較的多く見られますので、そのような場合には量を調節するか担当医にご相談下さい。





合田外科新聞

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/GODA/index.htm>
ブログ <http://kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp/>

平成23年10月
第58号
合田外科

TEL 0797-71-2132
FAX 0797-74-1430

最近の話題：受診時定額負担制度

菅前総理のもとで、政府・民主党の社会保障改革検討会議は今年の6月30日に社会保障・税一体改革成案を決定しました。長年の懸案の消費税率を2010年代半ばまでに10%まで上げることが示されたのですが、実は同時に「高額療養費の見直しによる負担軽減と、その規模に応じた受診時定額負担等の併せた検討」なるものが密かに掲げられていたのです。おそらく一般の方は殆どご存知ないと思われますが、極めて問題点の大きいものですのでご説明致します。癌治療など高額な医療費がかかる場合には、月々の窓口で支払う負担額が一定の上限までとなる**高額療養費制度**という仕組みがあります。特殊な薬剤を使用したり、あるいは重症で集中治療を行った場合などは1ヶ月の医療費が1000万円を超えることも稀ではありません。このような場合にはもし3割負担の方であるとすれば月に窓口で300万円以上も支払わなければなりません。所得に応じた自己負担限度額が決まっており、最も多い場合でもかかった医療費の約1%+15万円程の自己負担で済むようになっていました。すなわち月に1000万円の医療費がかかっても最大25万円程の自己負担におさえられる訳です。とは言え25万円は大金ではありますので、更に限度額を下げて負担を軽くしようという案が出てきたのです。このこと自体は素晴らしいことですが、**限度額が下がったために増加する公費負担1300億円分をなんと一般の外来患者さんの窓口負担を増やして賄おうというのです！！**具体的には初診・再診を問わず患者さんの窓口支払い額（一般3割・70歳以上1割）に1回受診あたり100円を追加するというのです。何と無茶苦茶な案でしょう！月に1回受診して薬をもらうだけで済む方ならいざ知らず、多くの病気を抱えていて受診回数が多くなる高齢の方や、様々な障害のある方など弱者に皺寄せすることになるのです！！現在、医療関係の41団体よりなる**国民医療推進協議会**が「日本の医療を守るための国民運動」を始めています。社会保障の根幹に関わるこのような改悪は看過できません。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



病気の知識：小腸の病気

小腸は胃・十二指腸と大腸との間にある細長い腸管で主に栄養分の吸収を行っています。従来、小腸はカメラが届かないためにはっきりと調べることができませんでしたが、最近**バルーン内視鏡**や**カプセル内視鏡**などの新しい検査が登場しました。小腸の病気には、頻度は少ないですが**腫瘍**、また若い人に比較的に見られる慢性の炎症である**クローン病**、蛋白質が粘膜より漏れる**蛋白漏出性胃腸症**などがあります。近隣では宝塚市立病院の消化器センターが小腸の検査を行っていますので、検査の必要がある方はご紹介致します。



医院よりのお知らせ

①インフルエンザワクチンのお知らせ

インフルエンザワクチンの季節がやって来ました。ここ2～3年は新型インフルエンザで大騒動でしたが、幸い騒ぎも落ち着き、今年は例年通り**10月15日**より接種開始となります。また昨年は季節性インフルエンザ／新型インフルエンザの両方に対して効果のある3価ワクチンが使われましたが、今シーズンは平常通り季節性インフルエンザ専用のワクチンとなります。気を付けなければならないのは、厚生労働省の発表によると今シーズン供予定のワクチンは約**2700万本**とのことですが、需用予測が**2771～2798万本**と供給量を上回っており、**ワクチンが不足する可能性がある**ことです。あるワクチンメーカーの製造ミスで200万本以上が廃棄になったため、当初の予定量が確保できなくなったようです。遅い時期になるとワクチンの確保が難しくなりますので、是非とも早目の接種をお願い致します。また、ワクチンの接種料金は例年と同様で表の通りです。今シーズンからお子様のワクチン接種量が従来より増加しますが特に値上げは致しません。65歳以上の宝塚市民（あるいは西宮等の近隣市にお住みで市役所で証明書をもらってきて下さった方）は1000円の負担金で接種を受けることができます。また60歳以上で特定の疾患をおも



	お一人	お二人以上	接種回数
65歳以上（市民）	1000円／人	1000円／人	1回
13歳以上65歳未満	3500円／人	3000円／人	1回
13歳未満	3000円／人	2000円／人	2回

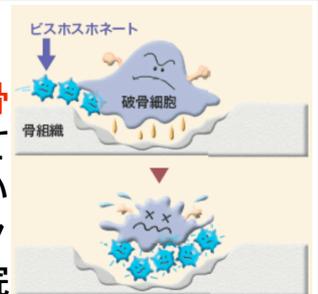
ちの方（身体障害1級等）の場合には1000円で接種可能なことがあります。詳しくは当院の受付まで。

②大腸がん検診（無料クーポン券）に関して

9月より国の「がん検診推進事業」に基づいて、宝塚市でも5歳刻みで働く世代の方に**無料クーポン券**が送られています。検診内容は従来より大腸がん検診として行っていた検便（**便潜血検査**）ですが、今まで費用がかかっていた方もクーポン券があれば無料で受けられますのでこの機会に是非受診して下さい。但し従来の大腸がん検診と重複受診はできませんのでご留意下さい。

新規処方薬情報：⑧ ビスホスホネート

ビスホスホネート製剤は、骨が脆くなり骨折の危険性が増す**骨粗鬆症**に対する薬剤で、骨を破壊する**破骨細胞**の働きを抑えて骨密度を増加させ、骨折を減らします。主に経口薬として用いられ、日本ではダイドロネル・ボナロン／フォサマック・アクトネル／ベネットなど数種類の薬剤が販売されています。当院では院内処方薬として**帝人ファーマ社のボナロン**を採用しています。ビスホスホネート製剤は非常に効果が強い薬剤ですが、食道～胃に対しての刺激が強く、**服用後30分間は横になってはいけません**。また胃の中に食物があると吸収が極端に悪くなるので、**朝一番の空腹時に服用する必要があります**。最近では週に1回や月に1回服用すればよいものも販売されています。院内には置いてありませんがご希望があれば院外処方致します。但し1回に1週間あるいは1ヶ月分服用する訳で、安全とは言われていますが、少し気にかかります。





合田外科新聞

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/GODA/index.htm>
ブログ <http://kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp/>

平成24年1月

第59号

合田外科

TEL 0797-71-2132
FAX 0797-74-1430

最近の話題：ヒートショック

約10年前の調査になりますが、入浴中に急死する人の数は全国で年間1万4千人にのぼり、そのうち65歳以上の高齢者が1万1千人を占めていたそうです。この数字は交通事故による死亡者数を上回っており、高齢者が増え続けていることを考えると、現在でも**大勢の方が入浴中に亡くなっている**と考えられます。特に**12～2月の寒い季節にほぼ半数が亡くなっており**、この時期にはより一層の注意が必要です。では何故このようなことが



起こるのでしょうか？それは「**ヒートショック**」が原因なのです。ヒートショックとは急激な温度変化が体に及ぼす影響のことで、室温の変化によって血圧が急激に上昇したり下降したり、脈拍が速くなったりする状態のことをいいます。**暖房がきいた部屋から出て、寒い脱衣所で服を脱ぐ時など要注意ですが、特に危険なのが湯船につかる瞬間です。**寒い脱衣所では体温を調節するために血圧や脈拍が上がりますが、急に熱い湯に入ると今度は血管が拡張して血圧が下がります。元々高血圧の方などは体の調節機能が過剰に働いて血圧が大幅に下がり、脳の血流量が減って意識を失い、浴室内で転倒したり浴槽で溺れたりする訳です。また入浴後に脱衣所に出ると再び血圧が上がって心筋梗塞を起こすこともあります。**熱い風呂が好き／一番風呂に入ることが多い／浴室に暖房設備がない／肥満気味／高血圧・糖尿病などの持病がある／高齢者**などがヒートショックを起こしやすい場合の特徴ですので、あてはまる方はお気をつけ下さい。それではヒートショックをどう防いでいくのかですが、家の中の温度差をなくするのが大切です。具体的には**トイレや洗面所・浴室に暖房設備を設置し、浴室にはマットや箕の子をひいて入浴時の体温低下を防ぎましょう。**またあまり熱い湯は危険ですので**41度以下のぬるめの湯にし、湯船に浸かる前に手や足など心臓から離れた場所から順番に湯をかけて体を徐々に暖めていくように**しましょう。冬場は寒くなり過ぎないように、**比較的暖かい日没前に入浴する**のもいい方法です。1人の時ではいざという場合に困りますので、なるべく家人のいる時に入浴して下さい。

病気の知識：大腸の病気：① 大腸癌

大腸癌は生活の欧米化に伴って日本でも非常に増加している癌です。**肉食が大きな原因**となっており、肉の消費量が多い国ほど大腸癌も多く発生しています。大腸癌はできる場所によって**盲腸癌・上行結腸癌・横行結腸癌・下行結腸癌・S状結腸癌・直腸癌**と分けられますが、**肛門から遠い場所の癌は症状が出にくく、発見が遅れる**こともしばしばです。宝塚市では便に目に見えない微量の血液が混ざっていないかを調べる**大腸癌検診**を行っていますので是非受診して下さい。検診で陽性の場合には精密検査として大腸内視鏡検査を行い、癌の早期発見に努めています。



医院よりのお知らせ

①新年のご挨拶を致します

昨年とは日本にとって大きな試練が訪れました。忘れもしない3月11日の東北地方を襲った大地震・・・そしてあの恐ろしい津波・・・。2万人近い尊い命が犠牲となりました。更にまた福島第一原子力発電所の大事故。現在もまだ多くの福島県の方々が避難生活を強いられています。お亡くなりになった方々にお悔やみを申し上げると共に、未だ不自由な避難生活を続けておられる方々にお見舞いを申し上げます。世界に目を向けますとチュニジアに端を発する「アラブの春」で長年に渡り専制政治を行ってきたアラブ独裁政権が次々に倒れるという慶事はあったものの、欧州のソブリン危機は混迷を深め、世界は依然として不安定なままです。今年辰年ですが、辰（龍）は古来、雨を降らして豊作をもたらす神として崇められ、また周りから忍び寄るあらゆる悪災や難を追い祓うと言われてきました。今年こそは豊潤で安心できる1年間であって欲しいと願います。皆様と皆様のご家族の幸せを祈りつつ、新年の挨拶とさせていただきます。 院長 合田 潔



②インフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチン

インフルエンザ予防接種はお済みですか？1月31日までですのでまだの方はお急ぎを。さて、インフルエンザとは別に肺炎球菌のワクチンを当院でも実施しております。肺炎球菌は肺炎の主要な原因で、このワクチンを接種すると肺炎に罹りにくく、また罹ったとしても重症化しにくくなります。テレビでご覧になって関心を持たれた方も多いと思います。従来このワクチンは一生に1度しか接種できず、有効期間が5年ということで接種タイミングが難しく、普及していませんでした。それが最近になり5年経ったら再度接種可能となって広まりつつある訳です。持病のある方や高齢の方にはお勧め致します。詳しくは窓口まで。

今そこにある危機：①TPP（前半）

今号より新コラム「今そこにある危機」を始めます。今まで「最近の話題」で医療ツーリズムや受診時定額負担制度など国民皆保険制度を揺るがしかねない政策に警鐘を鳴らしてきました。少子高齢化に伴う社会保障費の増大抑制を錦の御旗に、これからは財務省をはじめとする中央官僚は様々な医療費抑制政策を画策してくると思われれます。こういった政策は一般の人々に知られることなく進められ、広く知られる頃には後戻りできないこともあります。そこでこのこのコラムでは問題点をいち早く皆様にお伝えしていきます。まず第1回目としてTPPをとりあげます。TPPは環太平洋戦略的経済連携のことでアメリカの主導のもとに環太平洋に従来より大規模で例外のない自由経済圏を築くことを目標にしています。シンガポール・オーストラリア・アメリカなどが交渉しており、先日日本も交渉に加わることを宣言しました。経済連携というと輸出入に関係することのようですが実は医療も大きな影響を受ける可能性があるのです（続く）。



合田外科新聞

ホームページ www.godageka.jp
ブログ www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成24年4月

第60号

合田外科

TEL 0797-71-2132

FAX 0797-74-1430

最近の話題：診療報酬改定

平成24年は2年に1度の診療報酬（医療費）改定の年で、4月1日より新しい基準が使われます。日本の医療は、誰でも何時でも何処でも受診することができる国民皆保険制度であり、同じ規模の医療機関（大病院・中小病院・診療所）ならば同じ医療行為（診察・管理・処置・手術等）には全て同じ決まった点数が付けられており、これによって全国どこでも比較的低額の負担で医療を受けることができます。



アメリカでは虫垂炎（いわゆる盲腸）の手術でわずか1日だけの入院でもボストンでは160万円、ロサンゼルスでは190万円、そして何とニューヨークでは250万円もの費用がかかります。極めて高額な上に費用もバラバラ、また医療保険を使える人も限られています。一方日本では地方の田舎町であっても東京の都心であっても手術費用はせいぜい数十万円、しかも保険が効きますので実際の支払いは数万円で済みます。いかに日本の国民皆保険制度が優れているかが分かります。今回の改定では医療費の総額はほぼ据え置きで、決まった枠の中での調整となりました。前回の改定では疲弊する勤務医対策として、急性期を扱う大病院に重心を置きましたが、今回は地域医療の再生を図る観点から、医療と介護の役割分担と連携、在宅医療などが重点課題となりました。診療所においては同一日に2科目受診（複数科受診）する場合の再診料に関して、診療時間外の対応に関して、後発医薬品（ジェネリック）の使用促進に関して、高い専門性を有する医療技術に関して、在宅医療の機能強化に関して評価が行われるようになりました。普通に外来を受診される方の場合には薬価や検査料が若干下がりますので、これまでより少し負担が軽くなるか、せいぜい同じ位であると思われます。在宅医療を専門的に行っている診療所により、居宅で医療を受けられている場合には負担が重くなる可能性があります。従来よりもよりしっかりとした体制の医療を受けられることとなります。国の財政が厳しい中、まるで高齢者の医療が全ての元凶のように言われますが、医療を含めた社会保障は国の政策の基本です。基本に忠実な政策を望みます。

病気の知識：大腸の病気：② 過敏性腸症候群

過敏性腸症候群は主に大腸の運動や分泌の異常で起こる病気の総称です。下痢・便秘などの便通異常や下腹部の張りなどの症状がみられますが、検査を行っても炎症や潰瘍などの目に見える異常は見つかりません。自律神経の異常やストレスなどが関係していると言われていますが、はっきりとした原因は不明です。以前、神経性下痢と呼ばれていたものも含まれます。治療は対症療法（整腸剤・止瀉薬等）が主体になりますが、ストレスを緩和する抗不安剤などが使われることもあります。また最近では神経伝達物質セロトニンの阻害剤も新たに使われるようになり、効果をあげています。



医院よりのお知らせ

①検診が始まります！！

4月より平成24年度の検診が始まります。当院では宝塚市国民健康保険特定健康診査（メタボ検診）と高齢者の方の宝塚市後期高齢者健康診査を行います。対象の方には宝塚市より案内が届きますのでお持ち下さい。またがん検診として、肺がん検診・大腸がん検診・肝炎ウィルス検診・前立腺がん検診も行っていますので合わせて受診下さい。



検診種類	期間	対象	内容	料金	その他
宝塚市国民健康保険特定健康診査	H24/4/1～H25/2/28	四十歳以上の宝塚市国民健康保険加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料	心電図検査がある場合あり
宝塚市後期高齢者健康診査	H24/4/1～H25/2/28	宝塚市民で兵庫県後期高齢者医療の被保険者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料	心電図検査・生活機能評価がある場合あり
肺がん検診	H24/4/1～H24/6/30 H24/9/1～H24/11/30	四十歳以上の宝塚市民	胸部エックス線直接撮影	500円	市民税非課税世帯・七十歳以上・宝塚市国民健康保険加入者・生活保護世帯は無料
大腸がん検診	H24/4/1～H25/2/28	四十歳以上の宝塚市民	検便（便潜血検査）	500円	
肝炎ウィルス検診	H24/4/1～H25/2/28	四十歳以上の宝塚市民で過去に肝炎検診未受診の方	血液検査（B型・C型肝炎ウィルス）	1200円	
前立腺がん検診	H24/4/1～H25/2/28	五十歳以上の宝塚市民（男）	血液検査（腫瘍マーカー）	1000円	生活保護世帯は無料

②新規ホームページ開設！！



プロバイダー（ニフティ）の都合により更新ができなくなっていた当院のホームページですが、この度プロバイダーを変更し、新たなアドレスを取得して再出発を致しました。当面は旧ホームページの素材を流用したのですが、徐々に新しい画像などをアップしていく予定です。アドレスはこれ！！

www.godageka.jp

③診療時間外の対応に関して

当院は診療時間外でも平日の昼間は看護師が待機しています。平日の夜間・土曜の午後・日曜祝日に関してはかかりつけの方には電話で対応しております。当院に電話（☎0797-71-2132）をして頂くと、院長携帯電話に転送されます。留守番電話の場合にはお名前・ご用件などを録音して下さい。後ほどコールバック致します。

今そこにある危機：②TPP（後半）

TPPは医療にどう関係するのでしょうか？TPPは元来は貿易に関する取り決めで、加盟している国の間で関税や非関税障壁を撤廃し、経済的な国境をなくすことを目的にしています。そうすれば貿易が活発になり経済が発展するという訳です。しかしこの非関税障壁というのが曲者で、主要交渉国のアメリカが公的医療保険（国民皆保険制度）の廃止を求めているのではないかと危惧されていたのです。アメリカは公にはこれを否定しましたが、これまで何度も日本に対して医療分野での株式会社の参入や民間保険会社の参入などを強固に要求してきたことを考えると油断できません。アメリカは弱肉強食の国でいついかなる時でも強欲に営利を追求します。アメリカの利益はすなわち日本国民の犠牲の上に成り立つものですから簡単にTPP賛成とはいきません。ついこの間リーマンショックを引き起こした国です。慎重な交渉が必要でしょう。

